

# ジェンダーに 基づく暴力(GBV)の 専門家ではないあなたが GBVサバイバー のためにできること



ユーザーガイド

このユーザーガイドは、ポケットガイドとともに、**GBV支援機関**（GBVに関する紹介経路やGBV相談窓口など）が、**あなたの活動する地域にない状況において**、あらゆるセクターの人道支援従事者をサポートするために作成されました。

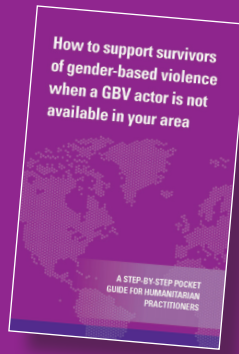
本ユーザーガイドの**対象者**は、プログラムマネジャー、テクニカルコーディネーター、チームリーダー、スーパーバイザーなど、あらゆるセクターにおいて、現場でのチームの管理、監督、能力開発等を担当している方々です。例えば、水・衛生（WASH）に関する事業のプログラムマネジャーが、このユーザーガイドとポケットガイドを使えば、衛生推進担当者に対して、日々の活動のなかでGBVサバイバーから被害を打ち明けられたらどのように対応すべきかを説明することができます。

このユーザーガイドは、

- (1) 支援活動のプログラムや人道支援としてのなんらかの介入を計画・準備し、立ち上げる段階と、
- (2) 日常の業務において、GBVサバイバーをどのようにサポートすべきかを担当チームに説明する場合に用いることができる、

**キー・メッセージと留意点**を提供します。

担当チームに対して、ポケットガイドについてのブリーフィング（要点についての説明）を活動地域の文脈に合わせて実施する際には、まずGBV専門家の協力を仰ぐことをお勧めします。このユーザーガイドはGBV研修の包括的なファシリテーター・ガイドではなく、また、GBV専門家から人道支援従事者に対して実施されるべきGBVのコア概念やGBV研修を代替するものでもありません。なお、ポケットガイドは心理的応急手当（サイコロジカル・ファーストエイド:PFA）の枠組みを使用していますが、PFA に関する予備知識や訓練は必要ありません。



## 目次

### 準備:安全なプログラムの設定 ..... 2ページ

事業とその担当スタッフのための準備のヒント:  
GBVサバイバーへの安全なサポートために

### チームへのブリーフィング ..... 4ページ

→ 半日バージョン

→ 一日バージョン

キー・メッセージと重要な手順:

GBVサバイバーから相談を受けた場合、  
どう対応すればよいかをチームに説明するために

### 付録 I : 主要概念 ..... 8ページ

研修の実施に必要な概念

(本ガイドの内容を補足するために、より詳細な資料へのリンクも掲載)

### 付録 II : 研修ツールと追加資料 ..... 13ページ

研修ツールと、サバイバー中心アプローチのための  
コミュニケーション・スキルに関する資料

## 準備: 安全なプログラムの設定

GBVサバイバーへの安全かつ適切な対応は、まず十分な準備から始まります。見落とされがちではありますが、この準備の段階が最重要であるといつてよいでしょう。

**準備の主な目的は、GBVサバイバーにどのような選択肢が存在するかを理解することです。**プログラムマネージャー、チームリーダー、テクニカルリーダー、その他の人道支援従事者として、あなたができることは以下の通りです:

### ステップ1. 計画を立てる

1. GBVサバイバーを利用可能なサービスにつなげる方法を確認しましょう。ステップ2参照。
2. ジェンダーに基づく暴力や、子どもや若者が関与する被害についての情報を共有するための規約について、活動実施国のGBV専門家に確認しましょう。さらに詳しいガイダンスが必要な場合は、所属機関の国内支援担当者または専門の担当者に問い合わせてください。
3. 関連する性的搾取・虐待防止（PSEA）規定・規約を確認しましょう。活動地域の人道支援調整システムからガイダンスが得られる場合があります（例:活動国のPSEAネットワークなど。日本国内ネットワークは付録II その他のリソースを参照）。
4. プログラムにGBV リスク軽減の対策を組み込んだり、改善したりできるかを確認しましょう。IASC GBV ガイドライン (<http://gbvguidelines.org>)の各セクターのセクションを参照してください。
5. あなたやチームメンバーが対応できない事態に遭遇した場合に、助言をくれるGBV支援事業機関・担当者が活動国・地域、もしくは所属団体内にいるか確認しましょう。対応の難しい事態の例は、以下の通りです。
  - ・ GBVサバイバーが子どもであるとき
  - ・ 報告義務をとまなうとき<sup>1</sup>
  - ・ サバイバーの生命に危険が迫っているとき
  - ・ サバイバーが、サバイバー自身や他人に危害を加える可能性があるとき



### Do No Harm原則 (何よりもまず、いかなる危害も与えない):

### サバイバーに関する 情報を共有してはいけません

チームに対する要点説明を実施する際には、サバイバーによる明確な許可が得られない限り、被害に関する情報やサバイバーの身元が特定できるような情報は、誰にも共有してはならないことを強調してください。サバイバーの情報と安全を常に守るためです。個人情報や身元が特定できる情報には、サバイバーの名前、登録番号、生年月日、自宅住所、勤務先住所、サバイバーの子どもの通学先、被害が発生した時間と場所、加害者の名前などが含まれます。ただし、加害者が支援従事者の場合は、所属組織への通報義務が生じます。

<sup>1</sup> 特定の種類の被害については、報告義務が設けられている場合があります。詳細とガイダンスについては、保護事業に関する担当者に問い合わせてください。特に、加害者が支援従事者の場合は、所属組織への通報義務が生じます。

## ステップ2. 既存の支援サービスを把握する

自分の活動地域でどのようなGBV支援サービスが利用できるかを把握するために、常に GBV の専門家に相談しておきましょう。紹介経路や GBV 関連機関は、あなたの活動地域では利用できないかもしれませんが、他のサービスを通して、サバイバーとそのニーズに役立ち、支援することができるかもしれません。人道支援従事者には、活動するコミュニティで利用可能なサービスに関する最新情報を把握する責任があります。

**コミュニティ・レベルのものも含め、どのようなサービスが利用できるかを知っておくことは極めて重要です。** 団体、チーム、クラスター内で、利用可能なサービスに関する情報を提供できる担当者（保健、メンタルヘルス／心理社会的支援、保護機関など）が誰かを確認しましょう。

**参照できる情報源の例:** サービス・データベース（「誰が、いつ、どこで、何の支援をしているのかをまとめた、4W [who, when, where, what] と呼ばれる）、クラスターやセクターの代表、ウェブサイト、地域レベルまたは国レベルの調整会議、女性の権利に関する地元の団体や市民社会組織、地元政府の支援提供機関、GBVサブクラスターまたはワーキング・グループ（あれば）、UNHCRデータポータル、UN OCHA、humanitarianresponse.infoなど。

## ステップ3. 自分の偏見や思い込みをチェックする

人はだれでも、ジェンダーに基づく暴力にあう可能性があります。それは、性別、性的指向、性自認、配偶者の有無、障がいの有無、年齢、民族、部族、人種、宗教、誰に暴力を振るわれたか、どのような状況で暴力が振るわれたか、ということにかかわらずです。人道支援従事者としての私たちの義務は、すべての人の権利とニーズを尊重し、保護することであり、思い込みや決めつけを持ち込まないことです。



## サバイバーのための医療・保健サービスと被害発生直後の対応

医療・保健機関によっては、事件発生から72時間以内にHIVを予防する治療を提供し、事件発生から120時間以内に望まない妊娠の予防対応が可能な場合があります。サバイバーが利用可能な医療・保健支援が存在するか否かを判断することは、GBV専門家ではないあなたの役割・責任ではありません。しかし、**あなたの地域で利用可能な医療・保健サービスについて、常にサバイバーに情報を提供することは重要です。**

医療・保健サービスを受けることには、メリットもリスクもあるため、**入手可能なすべての情報をもとに、サービスを受けるかどうかを決めるのは、サバイバー自身の選択です。** サービスを受けるメリットは、治療を受けることで健康に良い影響をもたらす可能性があることです。一方、リスクとしては、そもそもサービスが存在しない、サービスの質が低い、サービス提供者が無神経な対応をしたり、なんらかの害を加えたりする、サバイバーの情報が漏れてさらなる危害にさらされるなどの可能性があることがあげられます。

# チームへのブリーフィング

## ブリーフィング実施のためのメモや資料の作成

1. ポケットガイドと背景説明を読み、よく理解しておきましょう。活動国のGBVサブクラスターまたはワーキング・グループに連絡を取り、テクニカルなサポートやガイダンスを求めましょう。国内にGBVの調整メカニズムやフォーカルポイントが存在しない場合は、保護（プロテクション）クラスターまたはセクターに連絡しましょう。
2. 説明の際にチームと共有できるよう、支援やフォーカルポイントについての情報リストを手元に用意しておきましょう。
3. 本ユーザーガイドを読み直し、GBVのコア概念とサバイバー中心の原則の理解を深めておきましょう。付録IとIIで紹介されている他の資料もできれば参照しましょう。
4. 研修の参加者を決定します。一度に最大25名ほどが適切です。複数の支援機関を代表する複数セクター・チームを対象としてもよいですし、個々の支援団体を対象に、団体独自の規定やGBVの通報経路、リソースに焦点を当てた研修を行うこともできます。
5. 安全かつ適切であれば、スタッフから事例を募って、研修に取り入れてもよいでしょう。（ただし、守秘義務を厳守し、匿名化し詳細を書き換えるなどして実際の事案と関連付けられないようにしてください。）
6. 適切な実施形式を決め（例えば、1回ですべてカバーする、または何日かに分けて行うなど）、支援活動の状況や参加者に合わせて研修内容を変更してください。
7. 付録IIのリソースや配布資料を、支援活動の状況に合わせて変更し、利用してもよいです。
8. 一日実施するの研修の場合、団体内または他機関のGBV専門家に相談しながら事例やロール・プレイを準備し、研修で用いることもできます。

# キー・メッセージと留意点

以下は、ブリーフィング内容のサンプルで、支援事業の状況やチームのニーズに合わせて変更することができます。ポケットガイドをチームに解説するには合計7時間の実施が最低限必要です。丸1日の研修を実施する、もしくは、2~3週間かけて複数の形式(実地研修、経験者による個別指導など)に分けて実施することが想定されます。この7時間で、キー・メッセージや原則をよりよく理解するための話し合いやディスカッションの時間を十分に取ることができます。緊急支援事業の開始など、時間が限られている際に用いることのできる、半日のアジェンダも用意されています。

時間に余裕がある場合は、付録IIに記載されている参考資料を使ってセッションの内容を拡大することもできます。特に、サバイバーに対して書をもたらすような対応・態度について考え、サバイバー中心のコミュニケーション・スキルを磨くことに注意を払いましょう。

## トピック **はじめに** 半日バージョン 15分 一日バージョン 30分

### アクティビティ

- キー・メッセージの説明

### ツールと資料

- 背景説明

### 伝えるべきキー・メッセージ

- この説明の目的は、ジェンダーに基づく暴力の被害を打ち明けた人を支援する方法について、基本的な情報とリソースを提供する。ここで学ぶスキルは、支援を必要とする誰にでも適用できるが、特にGBVのサバイバーが関わる状況に焦点を当てる。
- GBVサバイバーを見つけ出すのは、あなたの役割では

ない。そうすることは、むしろ被害を拡大させる恐れがある。その代わりに、誰かが私たちに助けを求めてきたときに、どのように役に立てるのかについて考える。

- あなたの役割は、なにかを決めつけたり評価するのではなく、耳を傾け、利用可能な支援に関する正確で最新の情報を提供し、サバイバーが自分で選択できるようにすることである。
- カウンセリングを行ったり、インタビューを行ったり、何が起こったのか、その詳細を理解したり、どうすべきかを指示したり、あなた自身の意見を述べたりしてはいけない。
- 人道支援従事者としてのあなたの義務は、困っているすべての人の権利とニーズを尊重し、保護することであり、思い込みや決めつけは避けるべきである。

## トピック **ジェンダーに基づく暴力とは何か** 半日バージョン 15分 一日バージョン 30分

### アクティビティ

- キー・メッセージの説明
- グループディスカッションと概念の明確化

### ツールと資料

- 付録I 主要概念
- 付録 II 配布資料と追加資料
- フリップチャートとマーカー

### 伝えるべきキー・メッセージ

- GBVの定義:ジェンダーに基づく暴力(GBV)とは、社会的に与えられた男性と女性の違い(ジェンダー)に基づ

いて、本人の意思に反して加えられるあらゆる有害な行為を指す包括的な用語である。

- GBVの種類:GBVには身体的、精神的、性的なものがある。どのタイプのGBVも長期的で深刻な結果をもたらすうが、暴力のタイプによって必要な対応は異なることがある。
- GBVの影響:GBVによって感情的、健康的/身体的、社会的な影響が生じる。GBVが打ち明けられた際の対応においては、サバイバーが加害者やその家族による報復を受けること、スティグマを負うこと、コミュニティやサバイバーの家族からのさらなる暴力にさらされること、あるいはサバイバーを責める、さらなる被害にさらすということのないように注意する。

## トピック **原則と安全な対応** 半日バージョン 15分 一日バージョン 30分

### アクティビティ

- キー・メッセージの説明
- 根拠のない通説と事実の比較

### ツールと資料

- ポケットガイド「キー・メッセージ」P.2,3
- 子供向けはp.16-20
- 付録II:サバイバー中心の態度や考え方に関する配布資料

### 伝えるべきキー・メッセージ

- 支援従事者の役割の再確認:人道支援に携わる者はすべて、いかなる差別も偏見もなく支援を提供することが義務づけられている。支援を必要とする人々の次のような要因に左右されることがあってはいけない。
  - 性別
  - 性的指向
  - 性自認
  - 婚姻状況
  - 障がい
  - 年齢
  - エスニシティ/部族/人種/宗教
  - 誰が暴力を振ったのか、関わったのか
  - 暴力がふるわれた状況

- あなたの役割は、判断することなく耳を傾け、利用可能なサービスに関する正確で最新の情報を提供し、サバイバーが自分で選択できるようにすることである。
- あなたの役割は、カウンセリングを行ったり、インタビューを行ったり、何が起こったのかその詳細を理解したり、どうすべきかを指示したり、あなた自身の意見を述べたりすることではない。
- すべてのサバイバーには異なるニーズがある。情報を提供しながら、サバイバーの声に耳を傾け、サバイバーがあらゆる決定を行うことができるようにすることが重要である。
- サバイバー中心のアプローチの実践:
  - **尊重:**サバイバーの選択、希望、権利、尊厳の尊重が、すべての対応に先立つ。
  - **安全:**サバイバーの安全と安心は、すべての関係者にとって最優先事項である。
  - **守秘義務:**人には、自分の話を「誰に話すか」または「誰に話さないか」を選ぶ権利がある。そのため、守秘義務を守るためには、サバイバーの許可を得ずに、いかなる情報も他の誰かに伝えることは決して許されない。
  - **非差別:**助けを必要としている人に対し、平等で公正な対応を行う。

## トピック **準備** 半日バージョン 15分 一日バージョン 30分

### アクティビティ

- プレゼンテーション

### ツールと資料

- ポケットガイドのフローチャートp.4、情報シートp.5&6

### 伝えるべきキー・メッセージ

- ポケットガイドを紹介する。
- GBV自分たちの活動地域には、GBVのサバイバーに専門的なケアやサービスを提供できるGBVアクターがいないことを確認する。
- GBVに特化しない他のサービスの提供が、サバイバー

- のニーズに役立つことがある。
- ポケットガイドの情報シートを記入しておく。
- この情報シートが、サバイバーと共有できる情報である。これらのサービスを利用するかどうかを決めるのはサバイバー自身である。(利用可能なサービス、アクセスの方法、担当窓口への連絡方法を提供)。

**アクティビティ**● **プレゼンテーションとグループディスカッション****ツールと資料**

- **ポケットガイド**の「見る」「聴く」におけるそれぞれの「やるべきこと」「やっってはいけないこと」(p.7&8)、「サバイバーの視点」における「見る」(p.12&13)「聴く」(p.14)

● **付録 II: サバイバー中心のコミュニケーション・スキルに関する配布資料**

- **一日バージョン:GBVの専門家と連携し、状況に応じたロールプレイを作成し実施する。**

**伝えるべきキー・メッセージ**

- **ファシリテーターへの注記:**このセクションは、GBV専門家と共同で実施することを推奨する。
- 支援を求めようとしている人を無視してはいけません。
- サバイバーのニーズが最優先される。
- 守秘義務を守る。サバイバーや被害者について記録してはいけません。詳細を書き留めたり、写真を撮ったりしない。サバイバーとグループディスカッションをするために

外部者やメディアを呼んではいけない。携帯電話などで会話を録音してはいけません。

- サバイバーがどのような感情であっても表現できるようにする。口数の少ない人もいれば、怒ったり叫んだりする人もいれば、泣く人もいます。サバイバーの話に耳を傾け、どのように手助けできるかを尋ねる。被害の詳細について質問するのではなく、サバイバーが話したいことを、何でも聞くつもりであることをしっかりと伝える。
- もし、サバイバーに対しても自分自身に対しても安全が確保できない状況であれば、それをきちんと認識する。よりよい支援ができる担当者が他にいる可能性がある。
- **ファシリテーターへの注記:**守秘義務の限界、情報共有・報告の要件、子どもへの配慮などを含むPSEA規定(加害者が支援従事者の場合には所属団体への通報義務が生じる)や、活動地域の状況に関連するその他の関連する規定等も説明する。
- 自分の上司や他の支援従事者にサポートを求める場合は、必ず最初にサバイバーの許可を得る。誰と話したいのか、なぜ話す必要があるのか、どのような情報を共有したいのかという詳細を明確にして許可を得る。サバイバー情報共有を拒否したり、不安を感じている場合は、GBVポケットガイドのツールを使って支援する。

**アクティビティ**● **プレゼンテーションとグループディスカッション****ツールと資料**

- **ポケットガイド**「つなぐ」における「やるべきこと」「やっってはいけないこと」(p.9&10)、「サバイバーの視点」における「つなぐ」(p.14&15)子ども向けは (p.16-20)

**伝えるべきキー・メッセージ**

- **ファシリテーターへの注記:**このセクションは、GBV専門家と共同で実施することを推奨する。
- あなたの主な役割は、他に利用可能なサービスがあれば、その情報をサバイバーに提供することである。利用可能なサービスや、サバイバーがより安心できる選択肢について正確な情報を伝える。
- 利用可能なサービスが存在しない場合は、誠実な態度で接することが重要。サバイバーが勇気を出して自分の経験を話してくれたことに感謝し、これ以上直接的な支援ができないことを謝罪する。そのやりとりの中で、可能な限りサバイバーの尊厳を尊重するよう努める。
- 思いやりを持ってやりとりを終わらせることを心がける。たとえサバイバーが何も決断しなかったとしても、その選択や判断を応援することがあなたの役割です。サバイバーと再び話す場を持ったり、カウンセリングを行ったり、サバイバーの今後につい

てフォローアップしない。

- 対応を終えたら、このような状況についての情報を共有するため、所属団体の規定に従う。
  - **ファシリテーターへの注記:**この点に関しては詳細についての確認と説明準備の作業が必要。
- サバイバーの情報や被害に関する情報を誰とも共有しない。あなたがどんなに適切な対応をしたとしても、サバイバーの経験を無かったことにしたり、苦痛を取り除いたりすることはできません。サバイバーの経験を聴くことは、あなた自身が辛い経験、トラウマになるような経験、傷つくような経験(二次的トラウマ)にさらされることがあります。苦痛な感情が湧き上がってきた時、自分自身をケアすればよいかを考えてみる。あなた自身を支援してくれるサポートシステムやネットワークに助けを求めるようにする。
  - **ファシリテーターへの注記:**職員**の心理社会的支援のためのチームリーダーとの安全な空間でのミーティングなど、職員のためのケアの選択肢についてのリソースを提供する。**
- サバイバーの状態や、適切なサービスを受けているかどうか心配な場合は、サービス提供団体に直接連絡すること。サバイバーに直接連絡してはいけません。
- 暴力は繰り返し起こることがあるので、以前に話をしたサバイバーに再び会ったり、そのひとが別の暴力を経験したことを知ったりするかもしれない。サバイバー経験を変えることはできないが、その都度サバイバーと向き合い、先入観や固定観念を持つことなく話を聞くことはできる。以前に話を聞いたことがあるかどうかは関係ない。

# 付録 I: 主要概念

## ジェンダーに基づく暴力とは何か?

**ジェンダーに基づく暴力(GBV)**とは、社会的に与えられた男性と女性の違い(ジェンダー)に基づいて、本人の意思に反して加えられるあらゆる有害な行為を指す包括的な用語です。これには、身体的、性的、または精神的な危害や苦痛を与える行為、そのような行為の脅迫、強要、その他の自由の剥奪が含まれます。これらの行為は、公的な場でも私的な場でも起こり得ます。

**ジェンダー**とは、男性と女性の間での社会的差異を指し、この際は習得されて形成されるものです。ジェンダーは各文化に深く根付いているものの、時間の経過とともに変化することがあり、文化内および文化間で大きな違いが見られます。「ジェンダー」は、どの文化においても、男性と女性に対して与えられる役割、責任、機会、特権、期待、そして制約を規定します。

### 緊急事態や避難生活におけるGBVの要因の例:

- 紛争に関連したGBVの新たな脅威/形態
- プライバシーの欠如、過密状態、基本的ニーズへの安全なアクセスの欠如
- 人道援助の設計そのものが、GBVのリスクを高めたり、新たなリスクを生み出したりする
- 家族との離散、身分証明書などの書類の欠如、支援のための登録時における差別
- 保護的な社会のメカニズムや行動を規制する規範の崩壊
- 脆弱性や支援依存度の増加と、それに伴う搾取のリスク
- 人道支援従事者が権力を持つなど、新たな権力関係が生じる

## GBVの原因は何か? GBV発生に寄与している要因は何か?

**GBVはジェンダー不平等と権力の濫用によって引き起こされます。** GBVは男性や少年、性的マイノリティを含む誰もが経験する可能性があります。特に、女性と少女は男性による従属、無力化、懲罰、または支配を目的とした暴力の影響を大いに受けています。加害者とサバイバーのジェンダーは、暴力そのものの動機だけでなく、社会がその暴力をどのように容認または対応するかにも大きく関係しています。

**寄与要因とは、**問題をより悪化させる原因となるものを指します。GBVを悪化させる要因は、該当地域やコミュニティの状況、対象となる人々、そしてGBVの種類によって異なります。特に緊急時には、上記のようにGBVを悪化させる状況は数多くあげられます。これらの例は、さまざまな異なるリスクに対する広範な介入を通じてGBVに取り組むことの重要性を強調しています。

# GBVの種類とは？

## 性的暴力

本人の意思に反して、または同意することができない人に対して行われる、または試みられる性的行為をさします。性的暴力の形態には、レイプ(親密なパートナーや配偶者によるものを含む強制的な性的行為)、性的暴行、子どもに対する性的虐待、権力を持つ立場にある人(例:人道支援従事者など)による性的搾取、金銭・サービス・物品などとの引き換えによる性的搾取が含まれます。

## 身体的暴力

性的性質を伴わない身体的暴力の行為を指します。この暴力は、特に親密なパートナー関係でよく発生します。身体的な痛みや怪我を引き起こす暴力や、ネグレクト行為が含まれます。例えば、殴る、平手打ちする、首を絞める、突き飛ばす、つかむ、引っかく、噛む、髪を引っ張る、火傷させる、窒息させる、切りつける、撃つ、武器を使用するなどです。

## 感情的・心理的暴力

精神的または感情的な苦痛や傷害を与える行為を指します。通常、親密なパートナーや権力をもつ立場の人によって、身体的でない方法で行われます。例えば、言葉によるハラスメントが含まれます。

## 社会的または経済的暴力

身体的でない方法や、女性や少女、その他の弱い立場にある人々に対し、収入、金融サービス、財産、社会的な機会へのアクセスを否定する法律や政策に組み込まれた暴力が含まれます。例として以下があげられます:

(1)機会、サービス、資源へのアクセスにおける差別や拒否、(2)教育、健康に関する支援、有給の雇用へのアクセス拒否、(3)財産権の否定。このような暴力は、家族、コミュニティのメンバー、社会、機関、組織から加えられる可能性があります。



**有害な伝統的慣習**のうち、社会における女性や女兒の従属的地位を維持することを目的とするものはGBVの一種とみなすことができる。例えば、女性器切除(FGM)、強制結婚、児童婚、名誉殺人などである。

**ドメスティック・バイオレンス(DV)**とも呼ばれる**親密なパートナーからの暴力(IPV)**は、結婚を含む親密な関係において、一方が他方に対する権力や支配力を得たり、維持したりするために用いられる虐待的な行為の一種である。継続的な感情的／心理的暴力、身体的暴力、性的暴力など、いくつかの異なるタイプの暴力が含まれることが多い。

## 性的搾取と虐待からの保護(PSEA)

性的搾取と虐待からの保護とは、人道支援従事者やあらゆる関係要員による性的搾取と虐待から、脆弱な立場にある人々を保護するために取られる措置を指す言葉です。加害者には、人道支援従事者、ボランティア、警備員、請負業者、運転手、国連職員、国連警察、国連平和維持活動従事者、人道目的の物資・サービスの供給業者／販売業者なども想定されます。

## GBVがサバイバーにもたらす影響とは？

GBVは、サバイバーに対して性的、身体的、心理的健康に即時に深刻な影響を与え、また、将来の健康問題を生じさせるのリスクの一因となります。ジェンダーに基づく暴力は生命を脅かす被害であり、起こりうる影響の例は以下のとおりです。

身体的健康への影響	心理的健康への影響	社会的影響
身体的損傷	抑うつと悲しみ	被害者非難
障がい	恐怖や不安	スティグマ化
HIVを含む性感染症	自責感、罪悪感、恥の感情	家族やコミュニティからの拒絶と孤立
望まない妊娠	トラウマの再体験、フラッシュバック	強制結婚
安全でない中絶、流産	場所や状況を避ける、孤立する	稼得能力の低下
瘻孔(ろうこう)	怒り	貧困の増大
慢性的な痛み	集中力や記憶力の低下	再被害のリスク
睡眠障害と摂食障害	自傷行為	死、名誉殺人
自死を含む死亡	自死念慮／自死行為	

GBVの潜在的な影響を理解することは、サバイバーの行動や選択にどのように影響するかを理解するために有益です。また、暴力を経験したサバイバーに対して、さらなる害を加えないようにすることも重要です。例えば、サバイバーが経験した暴力に対して責任を負わせたり、サバイバーの反応を軽視したりすることは避けなければなりません。

さらに、守秘義務を守る必要がある主な理由のひとつに、サバイバーへの社会的影響があります。サバイバーは、家族やコミュニティの人々に知られることによる社会的な影響を恐れて、支援を求めることをためらうことがあります。守秘義務を強調し、守ることで信頼を気づくことができれば、サバイバーはあなたを信頼して助けを求めに来るようになるでしょう。

## GBVサバイバーは何を必要としているのか？

GBVには上記のような多岐にわたる影響があるため、多くのサバイバーには複数かつ多様なニーズがあります。すべてのサバイバーが同じように反応を示し、同じ支援が必要なわけでもありません。まず最初にすべきことは、サバイバーの話に耳を傾け、何が最も緊急なニーズなのか、何が必要なかを尋ねることです。また、信頼関係を築き、安心して助けを求められるよう、サバイバーの語ることを信じて受け止め、サバイバーには暴力が起こったことに対する責任ははかない、ということ伝える必要があります。

GBVがあなたに打ち明けられたときはいつでも、サバイバーとあなた自身の身体的・精神的安全を最優先にしてください。基本的な医療サービスが利用できる場合、GBVの身体的な影響を軽減するのに役立つこともあります。心理的健康や社会的影響は対処が難しいことが多いです。専門的なGBVの健康、心理社会的、法的サービスが利用できない場合は、ポケットガイドを参照して、サバイバーを支援するためのサービスについて確認してください。

**心の安全を確保するためのヒントについては、ポケットガイドの「やるべきこと」と「やってはいけないこと」のリストを参照してください。**

## あなたの介入自体がサバイバーに対して害をあたえないようにするための重要な指針は何か？

### 安全の権利:

安全とは、身体的な安全と危害からの保護だけでなく、強いストレスを感じている人の心理的・精神的な安全の両方を指します。サバイバー、サバイバーの家族、支援者(あなた自身を含む)の安全と保護に関するニーズを考慮することが重要です。GBV被害を打ち明けた人は、加害者、加害者を擁護する人々(家族やコミュニティのリーダー、当局を含む)や、家族内の名誉の観念によって、性的暴力をはじめとするさらなる暴力を受ける危険性が高いのです。

### 秘密保持の権利:

秘密保持とは、本人の明確な開示に対する求めがない限り、サバイバーのいかなる情報も秘密にされる権利のことです。これは安全、信頼、エンパワーメントを促進します。秘密を保持するとは、サバイバーの**インフォームド・コンセントがない限り、いかなる情報も**第三者に開示しないことを意味します。秘密保持の欠如は、サバイバーや、サバイバーから被害を打ち明けられた相手を含む関係者をさらなる危害にさらす可能性があります。

### 尊厳と自己決定の権利:

サバイバーと接するすべての人々は、GBVによって奪われた尊厳と自己決定権を回復する役割を担っています。例えば、サバイバーには、誰に情報を開示するか、どのサービスを利用するかを選ぶ権利があります。そのため、サバイバーが主体であり、支援者の役割は、サバイバーが回復への道を選択するために必要な情報を提供することです。サバイバーの尊厳、意志、権利を尊重しないことは、サバイバーの無力感や恥、自責の念を増大させ、再被害や、さらなる被害を引き起こす可能性があります。

### 非差別の権利:

すべての人は、性別、年齢、障がい、人種、言語、宗教的・政治的信念、性的指向、社会階層に基づく不当な差別を受けることなく、最良の支援を受ける権利があります。

## これらの重要な概念についての詳細とさらなる理解については、以下を参照してください。

- **GBVガイドライン(EN、AR、FR、SP)**: <http://gbvguidelines.org/en/home/>
- **GBV対応者ネットワーク**: <http://gbvresponders.org/response/core-concepts/>
- **PSEAタスクフォース**: <http://www.pseataaskforce.org/>
- **WHO**: [http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44615/1/9789241548205\\_eng.pdf](http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44615/1/9789241548205_eng.pdf)

## その他のリソース (ツールや活動など)

ポケットガイドのウェブページ([www.gbvguidelines.org](http://www.gbvguidelines.org))では、役立つリソースのリストを常時更新しています。共有可能なリソースをお持ちの方はEメールでご連絡ください:[gbv.guidelines@gmail.com](mailto:gbv.guidelines@gmail.com).

セクター/テーマ	リソース	リンク
IASCのGBVガイドライン	英語、アラビア語、フランス語、スペイン語の研修教材	<a href="https://gbvguidelines.org/en/training/">https://gbvguidelines.org/en/training/</a>
	GBVビジュアルポケットガイド 英語、フランス語、スペイン語	<a href="https://gbvguidelines.org/en/pocket-guide/visual-gbv-pocket-guides/">https://gbvguidelines.org/en/pocket-guide/visual-gbv-pocket-guides/</a>
WASH(水・衛生)	暴力、ジェンダーとWASHに関するツールキット	<a href="http://violence-wash.lboro.ac.uk/">http://violence-wash.lboro.ac.uk/</a>
食料安全保障	WFPのジェンダーに基づく暴力に関するマニュアル	<a href="https://reliefweb.int/report/world/gender-based-violence-manual">https://reliefweb.int/report/world/gender-based-violence-manual</a>
生活	CLARAツール	<a href="https://www.womensrefugeecommission.org/empower/resources/1231-clara-tool">https://www.womensrefugeecommission.org/empower/resources/1231-clara-tool</a>
シェルター (避難所)	シェルター・クラスター における常に考慮すべきGBVとシェルターに関するガイドライン	<a href="https://www.sheltercluster.org/gbv">https://www.sheltercluster.org/gbv</a>
現金	キャッシュ・ラーニング・パートナーシップ(CaLP)による現金とプロテクションに関する資料	<a href="http://www.cashlearning.org/ctp-and-multi-sector-programming/protection">http://www.cashlearning.org/ctp-and-multi-sector-programming/protection</a>
住宅、土地、不動産	ノルウェー難民問題協議会(NRC)による 女性のためのHLP(住宅、土地、不動産)の確保	<a href="http://womenshlp.nrc.no/">http://womenshlp.nrc.no/</a>
メンタルヘルスと心理社会的支援	心理的応急処置に関するWHOガイダンス 英語版 日本語翻訳版	<a href="http://www.who.int/mental_health/publications/guide_field_workers/en/">http://www.who.int/mental_health/publications/guide_field_workers/en/</a> <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/000805675.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/000805675.pdf</a>
	メンタルヘルスおよび心理社会的支援ネットワーク	<a href="https://www.mhpss.net/">https://www.mhpss.net/</a>
日本国内における性暴力関連の相談窓口	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター:日本国内の性犯罪・性暴力に関する相談窓口です。	<a href="https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/consult.html">https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/consult.html</a>
	DV相談ナビ:全国共通の電話番号(#8008)に電話をすると、お近くの都道府県配偶者暴力相談支援センターにつながります。	<a href="https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/dv_navi/">https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/dv_navi/</a>
子ども支援	子どものSOS相談窓口	<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sho-tou/seitoshidou/06112210.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sho-tou/seitoshidou/06112210.htm</a>
日本国内のPSEAHネットワーク	PSEAHワーキンググループ(日本)	<a href="https://www.japanplatform.org/pseah/index.html">https://www.japanplatform.org/pseah/index.html</a>

## サバイバー中心のコミュニケーション・スキル

### ボディランゲージ

ボディランゲージとは、私たちが顔や身体、身振りで送るメッセージのことです。例えば、人と接する際にどのようにどこに座るかといった、私たちが作り出す環境も含まれます。サバイバーをサポートするための適切なボディランゲージの方法について、英語ではSOLERと言います。

- **S (Square) 正しい姿勢:** サバイバーに正面を向いて座ること。
- **O (Open) オープン:** サバイバーと私たちの間に机や物も含めて、何も置かないようにしましょう。あなたとサバイバーの空間を空けておきましょう。
- **L (Lean) 傾く:** サバイバーの方に身体を傾けましょう。そうすることで、私たちがサバイバーの話に興味を持っていること、サバイバーの話に耳を傾けたいと思っていることが相手に伝わります。
- **E (Eye contact) アイコンタクト:** (文化的に不適切と見なされない限り) 常にサバイバーと目を合わせ続けるようにしましょう。
- **R (Relax) リラックス:** リラックスして座りましょう。椅子にふんぞり返るような、だらしない姿勢という意味ではありませんが、とても硬く緊張した座り方はしないようにしましょう。サバイバーも心地よくリラックスできるように、私たちもリラックスした態度で対応しましょう。

### 言葉によるメッセージ

言葉によるメッセージとは、私たちが口にする事、つまり会話の内容のことです。サバイバーのペースに合わせて、サバイバーが話す言葉を使いましょう。簡単な言葉で説明することは、サバイバーが安心して自分の体験を共有できるようにするための鍵となります。また、少し難しいと感じる方もいるかもしれませんが、沈黙を保つことによって、サバイバーは考えたり感情を処理したりする時間が得られることを覚えておくことも大切です!

### アクティブ・リスニング・スキル

- サバイバーがどのように考え、感じているかを正しく理解するためには、自由回答形式で質問するようにしましょう。
- 言い換えたり、まとめたりする(例「あなたが言ったことが理解できたかどうか確認させてください。」)。
- 発言内容や感情をふり返ることも大切です(例「彼が叫んで拳を振り上げた瞬間、あなたはとても怖かったようですね」)。サバイバーがどのように感じ、考えているかをふり返ることで、当事者が自分の状況と選択肢をより明確に理解し、自分の考えに集中できるように手助けしましょう。

(次ページへ)



## 承認と正常化

- 私たちにできる最善のことは、サバイバーが感じていることを理解し、認め、それを普通のことだと感じてもらうことです。例えば、サバイバーが泣き始めたら、私たちはこのような声がけができます：「**あなたが動揺したり悲しんだりするのは当然です。ここで泣いてもいいんですよ。私はあなたのそばにいますから、準備ができたら話しましょう。**」
- 私たちはサバイバーに元気になってもらいたい気持ちから、「怖がらないで」、「泣かないで」、「思ったほどひどくないよ」、「すべてうまくいくよ」などと言って、サバイバーに感情を表に出さないようにしたり、サバイバーの体験を軽減しようとしたりしがちです。しかし、私たちはサバイバーが**異常な出来事**に対して**正常な反応**をしていることとして受け入れましょう。泣いている人、怒っている人、落ち込んでいる人に寄り添うことは、私たちにとって居心地が悪く感じるかもしれません。しかし、真の支援者とは、サバイバーが感じるべきことを感じられるようにすることなのです。
- サバイバーに何を感じてはいけなさを伝えるのではなく、相手の感情を**認め**、それを**正常なもの**として受け入れましょう。

ヒーリング・ステートメントとは、サバイバーが体験を話した直後や、支援の過程で、サバイバーの癒しや回復を助けるために、援助者が使う言葉です。

- 「あなたの話を信じます」
- 「教えてくれてありがとう」
- 「こんなことが起きてしまって辛いですね」
- 「これはあなたのせいではありません」
- 「私と話すのはとても勇気がいることだと思います」

## 行動メッセージ

行動メッセージは私たちが行う事です。アドバイスではなく、情報を提供することが重要です。

**助言を与える**とは、相手に何をすべきか、どのように行動すべきかを伝えることです。しかし、性暴力に関しては、正しいアドバイスができるかどうか分からないため、アドバイスをすることはサバイバーを助ける上で効果的ではありません。援助者としては、決してサバイバーにアドバイスをすべきではありません。

**情報を提供する**とは、相手が十分な情報を基に判断できるように、事実を説明することです。情報を提供することは、サバイバーが自分で選択する力を持ち、サバイバーの意見や判断を尊重するにあたって効果的です。

## 配布資料

# サバイバー中心の態度や考え方

サバイバーには自分が受けた暴力について一切の責任はありません。暴力は常に加害者の選択によるものです。この考え方は、性暴力のサバイバーの安全と回復を確保し、さらなる被害を受けないためにとても重要です。

私たちは皆、自分自身の態度や考え方を仕事に持ち込んでいますが、知らず知らずのうちにサバイバーにとって有害なものもあるかもしれません。自分の態度や考え方を認識し、それらに挑戦することが重要です。

サバイバーに対する非難は、多くの地域社会でよくあることであり、私たちが サバイバーと関わる際には否定的な態度や考え方を積極的に回避し、対抗するよう努めなければなりません。サバイバー中心の態度や考え方とは、サバイバーの最善の利益を最優先にし、全ての対応がサバイバーの希望やニーズに基づいて行われるようにすることです。つまり、サバイバーの希望やニーズについての私たち自身の意見ではなく、サバイバーが本当に望んでいることに基づいて行動することです。

否定的な態度や考え方	支えとなる真の態度や考え方
不適切な振る舞いをした女性や少女がレイプされたら、それは彼女たちに非がある。	レイプとは、加害者が他の人に対して自分の力を行使するという選択をした結果である。性暴力行為は決してサバイバーの責任ではなく、常に加害者の責任である。
サバイバーがインタビューでの質問に答えられないのは、その出来事が作り話であるからだ。	トラウマによる心理的・身体的反応により、サバイバーは混乱し、その出来事に関する質問に答えられなくなることがある。
女性が自分の行動によって夫の暴力を引き起こしている。	暴力は加害者の選択によるものであり、人間関係において暴力が正当化されることはない。
他人に無理やりセックスを強要する人は、単に性的欲望をコントロールできないだけの人である。	レイプ加害者の多くは、性的欲望ではなく、権力、怒り、支配を動機としていることが多い。男性は性的衝動をコントロールできる。多くのレイプは事前に計画されており、レイプを行う男性はその行為を自分の意志で調節している。
親密なパートナーからの暴力／家庭内暴力(IPV)は家族の問題であり、家族内で対処すべきである。	IPVは地域社会にとって重大な安全と健康の問題であり、多くの国では犯罪とされている。毎年、何千人もの女性がIPVによって命を落としている。IPVのサバイバーには地域社会のサポートが必要である。
ほとんどの男性は、飲酒や薬物使用後にのみ妻を殴る。	薬物やアルコールは性暴力の一因となることがあるが、性暴力の直接的な原因は、加害者による暴力、権力、支配を行使する選択である。すべての男性が飲酒や薬物を使用して妻を殴るわけではありません。アルコールや薬物使用の男性も、誰に暴力を振るうかを選んでいるため、暴力を振るう相手を決めるのは彼ら自身の選択である。

(次ページへ)

否定的な態度や考え方	支えとなる真の態度や考え方
GBVサバイバーは、常に警察やその他の司法当局に事件を報告すべきである。	サバイバーは、自分に起きたことを誰に知らせるかを選べるべきである。
男は妻をレイプできない。	女性は、性的関係を持ちたいときと持ちたくないときにパートナーに対してその意思を伝える権利がある。多くの国では、結婚関係におけるレイプに対する法律が整備されている。結婚している女性も、結婚していない女性と同様に安全を守る権利がある。親密なパートナーからの暴力を受けている女性の多くは、結婚生活の中で何らかの性的虐待を経験している。
サバイバーが真実を語っているかどうかを見極めるのが人道支援従事者の仕事だ。	サバイバーをサポートし、サバイバーを信じるのが人道支援従事者の仕事である。
女性が不適切な服を着たり、間違っただけで行ったりすることでレイプされる。	レイプ犯は、特定の服装をしている女性を狙うのではなく、自分より弱いと思う被害者を探す。どんな人であれ、レイプされるに「値する」人などいない。
女性はレイプされたとよく嘘をつく。	世界的な調査によれば、他の重大犯罪の被害届と同様、レイプ被害届が虚偽である割合は非常に低い。これは他の重大な暴力犯罪と同じである。
レイプは屋外で、被害者が一人である夜間にのみ起こる	レイプはいつでもどこでも発生する可能性がある。多くのレイプは昼間や被害者の自宅で発生する。例えば、障害のある少女や女性が家に一人にいるときにレイプされることがある。また、女性や少女は加害者を知っていることが多く(たとえば、義父や叔父など)、これらのレイプはしばしば家庭内で発生する。
「反抗」しなければ、レイプされたとは言えない。	レイプは生命に関わる危険を伴う可能性がある。暴行から生き延びるためにどんな行動をとっても、それは適切な対応である。恐怖から反抗しないこともその一つの方法である。
サバイバーがレイプによる身体的な傷を示さない場合、彼女はレイプされていない。	サバイバーは暴行の身体的徴候を示さないことがある。
近親相姦(家族によるレイプや性的虐待)はまれである。	近親相姦はよくあることで、どの地域でも起こっている。
性的暴行は通常、見知らぬ者同士の間で起こる。	一部の推計によると、レイプ被害者の80%以上が加害者を知っていると言われている。レイプ加害者は、親族、友人、同僚、恋人、またはその他の知人であることが多い。
商業的なセックスワーカーはレイプされることがない。	商業的なセックスワーカーは、他の女性以上にレイプやその他の暴力にさらされている。
サバイバーは、自分が経験した暴力についてあまり考えすぎずべきではなく、「忘れるべきだ」。	暴力について話す機会が与えられないサバイバーは、回復がより困難になることが多い。すべてのサバイバーには、希望すれば、身近な人々とその暴行について話す機会が提供されるべきである。

このユーザーガイドは、PSEAHワーキンググループのGBVユーザーガイド翻訳タスクチームが(特活)ジャパン・プラットフォームの支援を得て和訳しました。

GBVユーザーガイド翻訳タスクチーム・メンバー(五十音順):  
川口智恵(東洋学園大学)  
工藤晴子(神戸大学)  
松本幸子(一般財団法人国際開発機構)

